



施設園芸・植物工場展 NEWS

Greenhouse Horticulture & Plant Factory Exhibition / Conference

発行元
GPEC NEWS編集室

〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル アテックス(株)内
TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620
E-mail:ofc@gpec.jp

過去最多の出展者を迎えて開催へ

米の生産調整見直しを受け、「米から園芸作物への転換・拡大」を進める動きが、全国各地で活発化している。国からの生産数量目標配分がなくなり、米の過剰生産による価格低迷への不安から、海外に販路を求める生産者もいる。一方で、キユウリなど園芸作物生産量を拡充させたり、稲作との複合経営を目指す農家が増えている。また、機械や施設、資材などの経費助成を行う自治体もあるなど、園芸転換を後押しする動きも見られる。

このような動向を見据え、特に今回GPECでは、設置にかかる低コストや収量増加につながる設備・機器などを、生産者や自治体に対して提案したいと考える企業の出展が相次いでいる。



関心高まる 環境制御など先端機器

若手生産者を中心に、ハウス内環境を制御するシステムやICTを用いた生産管理システムへの関心が高まっている。GPECに初出展する企業からも、この分野に様々な製品が展示される。

英弘精機は従来品の1/4まで小型化した気象観測装置を、環境デザイナーラボは濡れないミスト生成技術を、高圧ガス工業は炭酸ガスの局所施用装置をそれぞれ提案する。一方IOT分野では、クロスエリアシステムがクラウドを用いた生育環境監視システムを、ディーピーティーは業の栽培管理・環境測定技術を展示することを、今後のIOT農業における可能性を紹介する。

P SOLUTIONは無人の植物工場システムを、それぞれ紹介、国内外の最新情報を入手、比較できる場となる。また、育成に不可欠な光源装置では、ウシオライティングがLEDや超高压ナトリウムランプを、ジャパンマグネットはきのこや野菜など用途別に応じたLEDを、ビージェービーはアーバンファーミングに適したLED照明システムを、それぞれ提案する予定。植物工場の施設から資機材までが一堂に会するGPECは、今回も見逃せない。

昨今の天候不順や食の安全・安心への要求の高さから、今後ますます植物工場産の野菜が注目されそうだ。市場の拡大が予想されている植物工場の分野では、生産者・設備メーカー・ゼネコンなど約60社が所屬する日本植物工場産業協会がGPECに初出展、その取り組みを紹介する。さらに、日栄インテックは50種類の同時栽培を可能にした植物工場を、ベルギーのURBANCROが紹介する。また、北海道次世代施設園芸地域展開コンソーシアムは、ウシオライティングがLEDや超高压ナトリウムランプを、ジャパンマグネットはきのこや野菜など用途別に応じたLEDを、ビージェービーはアーバンファーミングに適したLED照明システムを、それぞれ提案する予定。植物工場の施設から資機材までが一堂に会するGPECは、今回も見逃せない。

米農家の施設園芸への参入・拡充の動き

無人植物工場など
先進システムが集結

開催まであと2ヶ月

出展者一覧

(5月7日現在/社名50音順/※共同出展)

一あ	KEIGO ※藤川	テヌート ディービーティー	※フルタ・エンネット
愛知豊橋次世代施設園芸推進コンソーシアム	小泉製麻	東洋管機	フローラ
IT工房Z	高圧ガス工業	東海物産	ベストクロップ
アキレス	国際農業社	東京インキ	ホーッグス
アグリジャーナル(アクセスインターナショナル)	小林クリエイト	東都興業	北海道次世代施設園芸地域展開コンソーシアム
有光工業	※トヨタ紡織	トキタ種苗	ボッシュ
アルミス	一さー	徳島文理大学	一まー
イース・ウォーターネット	サカタのタネ	徳農種苗	前川製作所
イーズ	佐藤産業	トミタテクノロジー	丸昇農材
イーズ中部	里山村	※RICHEL GROUP	丸文製作所
いとうち	三協フロンティア	※VB GROUP	三菱ケミカルアグリドリーム
イシダ	サンキンB&G	※PRIVA	みづほ物産
井関農機	サンテーラ	トヨタネ	みのる産業
イノチオグループ	サンボリ	トヨタネ/デンソー	明治大学 植物工場基盤技術研究センター
※ホーヘンドールン ※ロイヤルプリンクマン	サンロード	ドーワテクノス	マイワフォーシス
揖斐川工業	社会開発研究センター 植物工場・農商工専門委員会	一なー	矢崎化工
イリテック・プラス	昭和電工	南勢小橋電機	山本電機
イワキ	信州大学 先進植物工場研究教育センター	日栄インテック	ユビキタス環境制御システム研究会
岩谷産業	※産機	※クリーンファーム	ラスコジャパン
※三浦工業	※上越電子工業	※アグリセクト	渡辺パイプ
ウシオライティング	※大林組	日建リース工業	一海外ー
AGS	※クラレ	ニッパー	ASTHOR AGRICOLA
※WAGOグリーンプランニング	新農林社	日本アバンストアグリ	CHINA GREENHOUSE ALLIANCE
AGCグリーンテック	シンフォニアテクノロジー	日本カントム・デザイン	CERTHON
ADK研究所	シンワ	日本施設園芸協会	HOLLAND WEB
英弘精機	※ストラパック	日本植物工場産業協会	※HORTICOOP
エスペックミック	※ニチバン	日本農民新聞社・園芸情報センター	※CULVILENE
SUS	※シライテクノサービス	日本養液栽培研究会	※SUDLAC
ENEX	※大洋機械製作所	日本ロックウール	HUMOTT
エフピコチューパ	ジャパンマグネット	日本ワイドクロス	INTERHEAT【CHINA】
農業生産法人 LSふあーむ	スナオ電気	ネポン	JEL A-Tec
OATアグリオ	住友ベークライト	ノーユー社	※高塔商会
オーケープランニング	青果物選果予冷施設協議会	※NUFirstration	KAMICO (KOREA AGRICULTURE MACHINERY INDUSTRY COOPERATIVE)
大阪府立大学 植物工場研究センター	星光社	※YAMIT	※KOREA DIGITAL
オンガエンジニアリング	※みすず工房	※Talgir	※FARMSKO
一かー	※清美環境化学	※Paskal	※TREENLINK
片倉機器工業	成電工業	※Megachem	※CHUNG-OH ENGINEERING
カネコ種苗	誠和	農業共済新聞(全国農業共済協会)	※SYSCO
環境デザインラボ	※レディシステムジャパン	農業技術研究会	※OMICSIS
関東天然瓦斯開発	※Delphy Japan	農研機構 野菜花き研究部門	※SHINAN GREEN TECH
機械振興協会	※トマトパーク	農山漁村文化協会	※SEONWOO
※オススペック	セムコーポレーション	のむら産業	※DAEDONG IND
※オンガエンジニアリング	セラク	一はー	※DISYS
※ケー・ティー・システム	全国農業協同組合連合会	ハイポネックスジャパン	※NAM KYUNG
※スマートロジック	全国野菜園芸技術研究会	ハリディング グループ	KI INDUSTRY
※ニソール	一たー	パイオニア風力機	MPINE
共立電照	タカヒコアグロビジネス	パナソニックES建設エンジニアリング	PHILIPS LIGHTING HORTICULTURE LED SOLUTIONS
協和	タキゲン製造	※パナソニック	RIOCOCO
クールスマイル	タキロンシーアイアグリ事業部	ビージェービー	RIJK ZWAAN EXPORT
※SOPIC	※シーアイマテックス	兵庫県次世代施設園芸モデル団地運営協議会	※高田種苗
空調服	※タキロンプロテック	福井県	SIMONETTI ADAMO
クボタ	ダイオ化成	福井シード	TRINOOG-XS (XIAMEN) GREENHOUSE TECH
※クボタアグリサービス	大仙	フタバ産業	URBAN CROP SOLUTION
クラトレーディング	ダイヤテックス	フューチャーライト	オランダ王国大使館
クロスエリアシステム	大和鋼管工業	※Future Green	
グリーン・コムジャパン	千葉大学	フルタ電機	

Smart Agri

スマートアグリ・ソリューション

NEWS

発行元
スマートアグリ・ソリューション NEWS編集室
〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル アテックス(株)内
TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620
E-mail:ofc@smagri.jp



ICTやドローンなどの先端技術を活用する「スマート農業」。昨今注目を集めているこの分野を、農業関係者に広めようと、自治体も積極的だ。設備・機器導入の支援はもちろん、先端機器・技術の開発など、様々な面でスマート農業の導入・普及を後押しする。

茨城県はJAや営農集団、認定農業者らのICT導入を支援するほか、高度な環境制御技術や収穫機、養液土耕システムの導入費用を助成する。埼玉県ではウェアラブル端末やドローンによる空撮技術の開発をサポート。千葉県は環境モニタリング装置や炭酸ガス施用装置の導入を補助し、東京都はICTを活用した施設管理の省力化技術を開発、実証事業も予定している。ほかにも、群馬県や山梨県などもそれぞれ、2018年度予算に生産者支援となる事業を組み込んでおり、省力化、高品質な生産を実現したいと願う生産者の一助となることが期待される。

そして、このような状況を背景に、GPECと同時開催されるスマートアグリ・ソリューションにも、関係者からの注目が集まっている。

自治体による「スマート農業」促進支援が相次ぐ

各地でのスマート農業の需要拡大が進む中期待が高まる「スマートアグリ・ソリューション」

先駆機構が切って出展

農研機構サプライヤー交流促進の場

本展示会には、「スマート農業の創出」を重点的研究課題の一つに据える農研機構が募集開始早々に出演を決めた。自動運転や気象データとの連携、ドローン、AIを用いた測定システムなど、農研機構におけるスマート農業の研究・開発成果を発表すべく調整が進んでいる。生産者や普及指導員のみならず、メーカーや全国の試験場などの技術者にとても興味深い展示となりそうだ。その他、イーソルが環境計測システムを、イノフィスがアシストスーツをマクタアメニティがAI・IoTを活用した品質情報化システムなどを展出。各社のスマートアグリに関する製品に注目が集まる。

本展示会はユーチャーである生産者へのPRはもちろんのこと、メーカー・大学・研究機関などのエンジニアとの技術交流も期待される。例えば、圃場の生育状況を観察するため飛行するドローン。このサプライヤーに対し、低価格や高い耐久性能などの特長を持つカメラやセンサーを開発したメーカーが、直接提案す

ることも可能だ。またユーチャーである生産者の感想をヒアリングすることで、求められるニーズや改善点を見つけるなど、新しい技術交流も期待できる。本展示会はスマート農業を広めるための新しいフィールドとなる。

来場登録とともに、事務局には出展に関する問い合わせも寄せられており。GPECとの同時開催のため展示スペースは限られているが、事務局では一社でも多くの申し込みに対応できるようレイアウトを調整。また、すでに申し込み期限は過ぎて

**出展希望者から
問い合わせ相次ぐ**



Mai1 : ofc@smagri.jp
TEL : 03-3503-7703

7月の初開催に向け出展者を最終募集中

**来場者の関心高く
事前来場登録続々**

生産者や開発者たちの本展に対する期待は大きい。同時開催のGPECは、特に生産者を中心にして事前来場登録数が着実に増え続けている。一方で、スマートアグリ・ソリューションでは、生産者のみならず、IT・機械メーカーなどの研究・開発部門の登録も多い。

展示会に関するアンケート

FAX:03-3503-7620

出展をご興味のある方は、こちらのアンケートにご回答ください

●関心のある展示会

GPEC スマートアグリ・ソリューション

●出展について

出展を検討する

資料がほしい

詳細を知りたい

(後日、事務局よりご連絡します)

来場したい

どのような出展物をご覧になりたいですか？



開催概要

スマートアグリ・ソリューション2018
7月11日(水)～13日(金)

10:00～17:00

東京ビッグサイト 東ホール

スマートアグリコンソーシアム

一般社団法人 日本施設園芸協会

アテックス株式会社

42,000人(予定、同時開催含む)

1,000円

(税込、招待券持参者・Web事前登録者無料)

施設園芸・植物工場展2018(GPEC)

主催者セミナー

出展者プレゼンテーション

■記入者連絡先

会社名

部署・役職

氏名

TEL

E-mail

〒 所在地

名刺

BUSINESS CARD